

マイナー

呼ばせない

●おもしろいスポーツ大集合●

2012年が明けた。今年は4年に1度の五輪イヤー。ロンドン五輪では、県内をはじめとする一流選手たちの活躍が目目だが、スポーツはメジャーな五輪種目ばかりではない。尾張・知多地方で新しいスポーツ、おもしろいスポーツに取り組み選手たちはいっばいいるはず。各地で黙々と練習に励む、そんな選手や裏方たちにスポットを当てた。

スラックライン

綱の上で大技無限大

▶1◀

10代の流行前と同じよう
な発展性を感じた」
昨年三月から、樹君を
誘って週に一度、練習を
始めた。「面白そう」
とは何でも、家族一緒に

ンにひかれたのは元氣
さんだった。「たなの綱
渡りではない。技も自分
で編み出せる。スノーボ
ットだが、樹君には新
んなは敷しく接した。樹
ね、できる技を増やし
た。他県の小学生の発
する」のが元氣さんのモ
そんな樹君に、元氣さ
は立きながら練習を重
まると楽しい」と娘さん
に振り返る。

スラックライン「たるんこ種」という意味
で、ベルト状の平たい綱の上で取り組む横渡り
とトランポリンを組み合わせたような技。ロ
ッククライマーが始めたが、米国や欧州で
盛ん。昨年12月に碧南市の臨海公園に専用の競
技場が完成した。

「入賞でさらに、この
競技の認知度が高まった
勢はみるみる、県内での
普及を願って、五月に仲
間一人と愛好者団体「愛
知スラックラインパラダイ
ス」を設立した元氣さ
んは手応えを感じている
。碧南市ながさちまち
向けの教室や体験会など
を開いてきたが、樹君の
活躍後、県会や備前申し
込みが相次いだ。

元氣さんは、名古屋市
や春日井市にある愛好者
団体なども連携し、競
技を広げたいと夢をい
る。「地元東浦町で気軽
にスラックラインを楽し
めるようになれば」と思
い掲ぐ。

樹君は、尻で体を揺ま
せて、体を一回転させ、
胸で着地して元に戻す大
技「フリーフォール」の
体得を目指す。時折、恐
怖心をあらわにする樹君
を元氣さんは励まし続け
る。「綱に体を託して、
あと一歩。親子の挑戦
は始まったばかりだ。

身長三メートルの体がく
るり、ひびり、縦横無尽
に跳びはね、回転するま
まはプレイダンスのよ
うだが、太は縄五本の
一本の綱「わっ、あぶ
ない」。バランスを崩
して落ちる細江樹君(三)

東浦町藤江が出身。
そでで見守る元氣さん
「あが(もう)一回、もう
一回」ともりぞける。
知人がブログで紹介し
ていた「スラックライ



綱の上で技を競う「スラックライン」の練習に励む細江樹君—東浦町体育館で